



イタイタイ病を
語り継ぐ

語り部 コーナー

イタイタイ病に関する貴重な体験談をお話いただいている「語り部」さんを紹介するコーナー。1回目は、イタイタイ病対策協議会の設立当初から副会長を務められる高木良信さんです。

高木さんのお母さんは、イタイタイ病患者で、1955（昭和30）年に亡くなりました。裁判闘争はもちろん、現在も続く発生源対策などについて、詳しい内容で細かな数値までも原稿なしで語られる姿に、高木さんの運動への執念を感じ取ることができます。



『私の抱負』^{たかぎりょうしん}高木良信さん（81歳）

人が死ぬときは、『痛い痛い』と言いながら寝たきりになるものだと思っていました。だから、子どものころ、自分の母親や近所の年寄りが動けなくなる姿を見ても何の不思議も感じませんでした。病気の原因が明らかになってからは、三井金属鉱業に補償を求めるため、「イタイタイ病対策協議会」を

立ち上げました。当初から、運動に参加し、裁判闘争にも携わってきました。

「語り部」の中には、患者を看病された経験のある方はおられますが、裁判を含めた克服の歴史を実体験で語れるのは私しかいません。汚染農地の復元が完了したとはいえ、上流に神岡鉱山がある限り発生源の監視を続けなければなりません。少しでも被害の実態を風化させないよう若い世代に語り続けていきます。

現在、高木さんのほか、次の「語り部」さんが活動されています。

青木有明さん、青島明生さん、大上久彦さん、小松雅子さん、柘山八郎さん、若林カズ子さん

（五十音順）

～今後、このコーナーで順次、紹介していきます～

語り部講話の感想

ガイダンス映像よりもこわさが伝わりました。（小学生・女子）

発生した年代を生きてきた人の言葉は、とても重みがあると感じました。（中学生・男子）

ほとんどの年月をイタイタイ病と闘う人生だったのだろう。親の看病と家事、それだけでもつらい人生なのに、裁判で闘われた話は、誇りをもって語れることだろうと思います。

（50歳代・女性）

長い期間いろいろな方面でご苦労されてこられたことにとても胸が熱くなりました。このお話は忘れられてはいけません。ぜひ後世に受け継いでいって欲しいです。そしてまた、新たな汚染が生じないように、住民の方々の健康を守られるよう切に願います。（60歳代・男性）

